

2025年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2024年12月3日



証券コード：4461（東証プライム）
第一工業製薬株式会社

本日のアジェンダ



- 1. 2025年3月期 第2四半期 連結決算** **P.3**
- 2. 2025年3月期 業績見通し** **P.15**
- 3. 2030年に向けた取り組み** **P.23**
- 4. トピックス** **P.28**

1. 2025年3月期 第2四半期 連結決算

連結 業績の概要（前期比較）



増収増益：市況の回復や電子材料の伸長、需要低迷の底打ちで増収増益

（単位：百万円）

	24/3月期 中間期	25/3月期 中間期	前年同期比増減	
			金額	増減率
売上高	29,200	35,431	6,230	21.3%
営業利益	△ 449	2,474	2,923	-
経常利益	△ 379	2,579	2,958	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 478	1,256	1,734	-

増収  **売上高**：ハイエンドサーバ向け光硬化樹脂材料が大幅に伸長

増益  **営業利益**：売上高伸長による収益性改善

連結 セグメント別構成比の推移



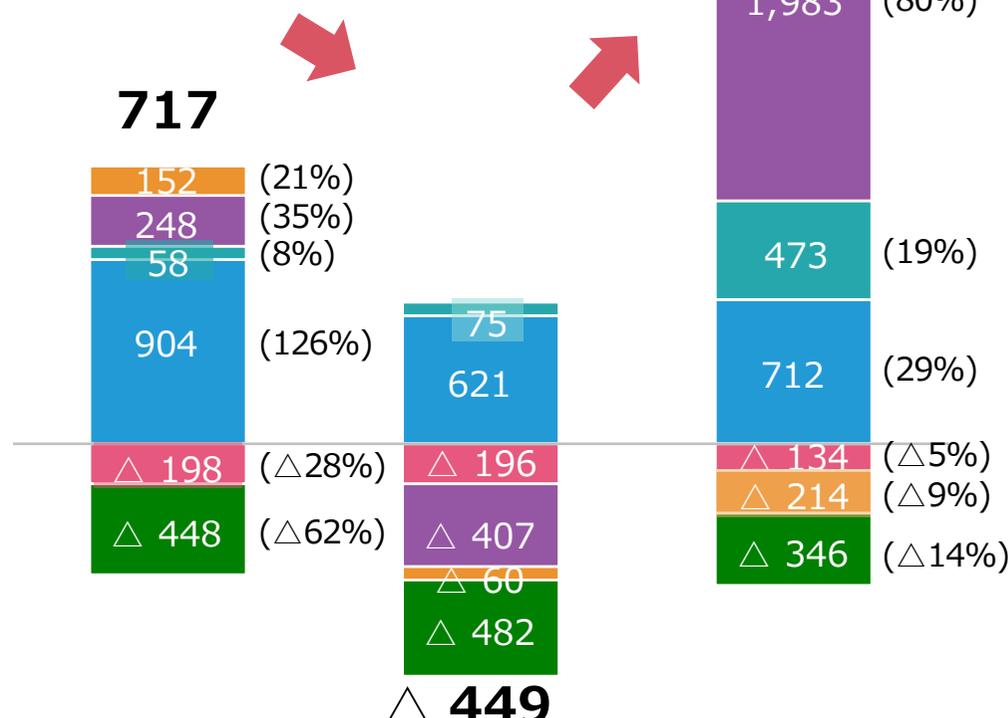
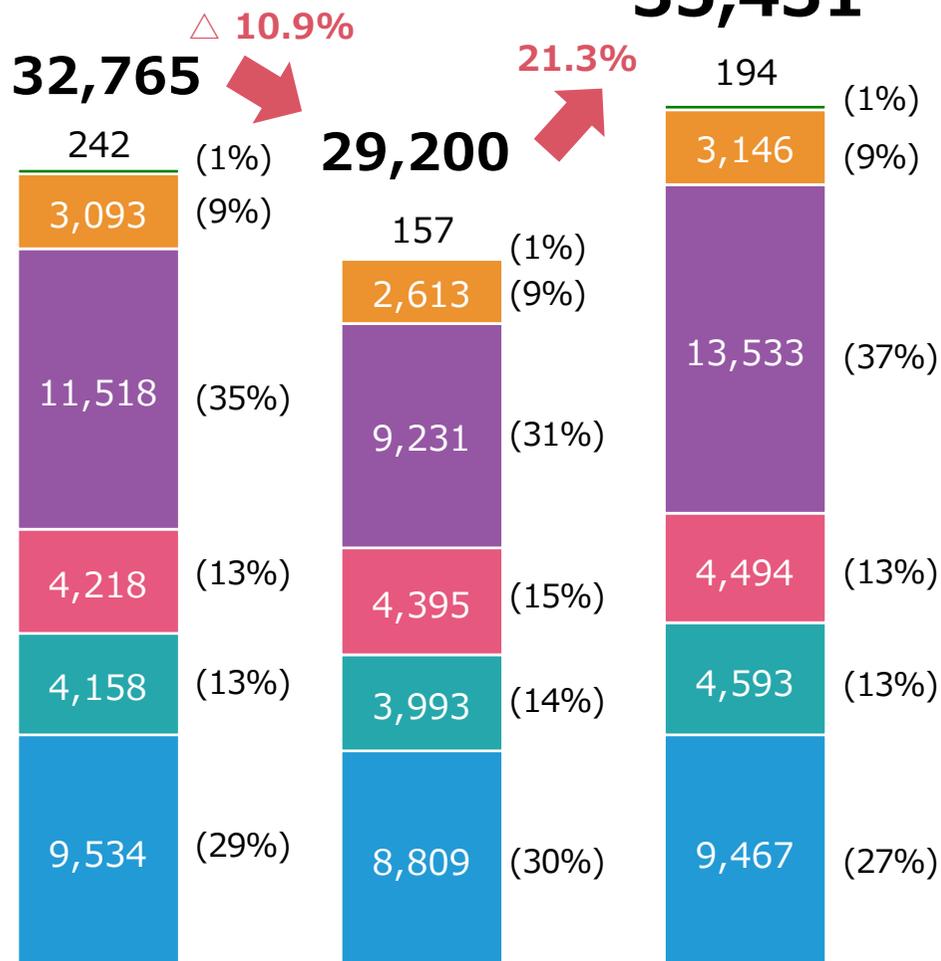
(): 構成比

売上高

営業利益

35,431

2,474 (百万円)



23/3月期 中間期 24/3月期 中間期 25/3月期 中間期

23/3月期 中間期 24/3月期 中間期 25/3月期 中間期

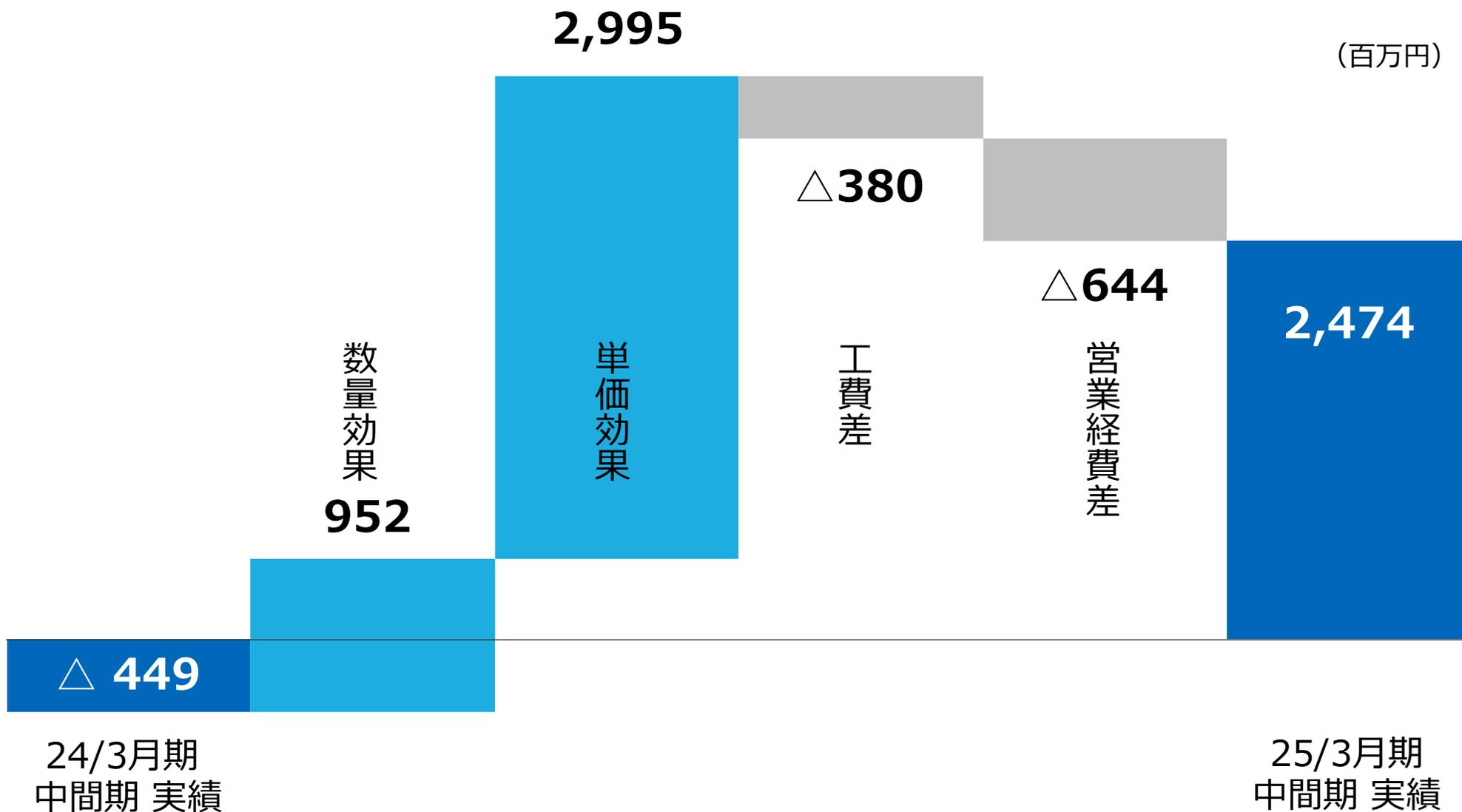
■ 界面活性剤 ■ アメニティ材料 ■ ウレタン材料 ■ 機能材料 ■ 電子デバイス材料 ■ ライフサイエンス

* 主に電子材料用途の
販売量増加

* 電子材料の販売量
増加及び値上げ効果

* 工場稼働率上昇
による経費増加

* 販売活動及び研究
開発費などの経費増加

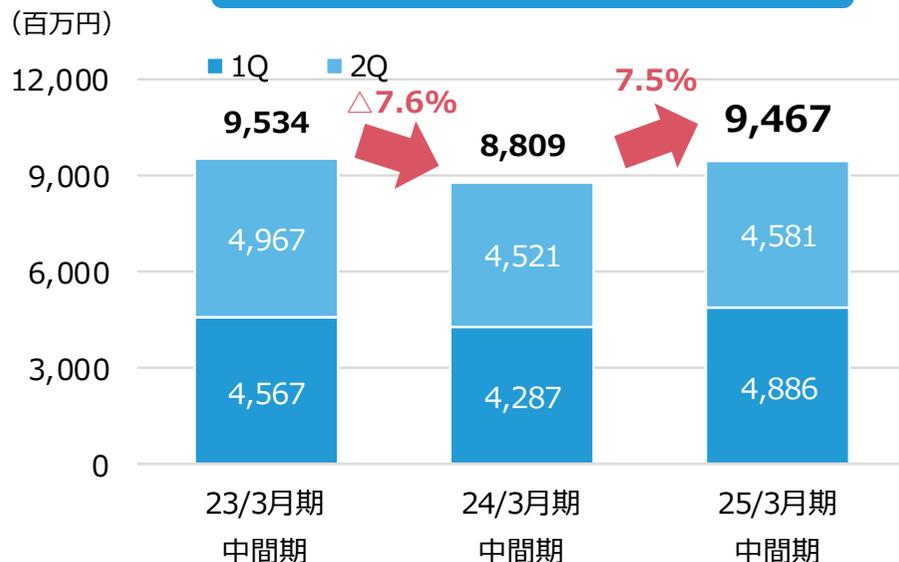




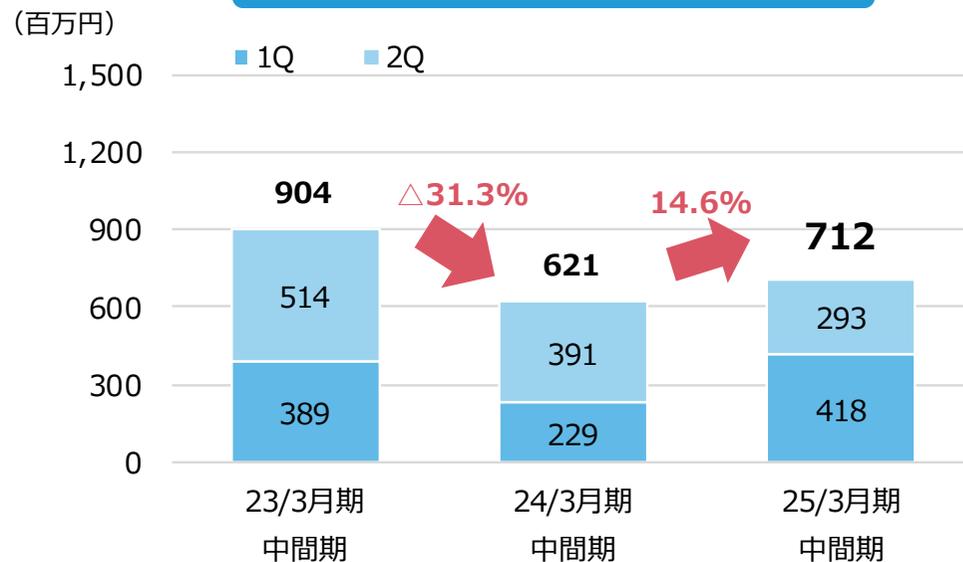
連結 セグメント業績 界面活性剤

1909年の創業以来、高機能界面活性剤を提供している事業です。

売上高



営業利益



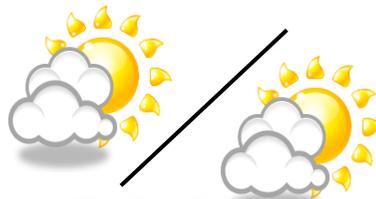
売上高：総じて堅調に推移

- IT・電子材料：堅調に推移
- 石けん・洗剤用途：大幅に伸長
- 塗料・色材用途：低調に推移
- ゴム・プラスチック：堅調に推移

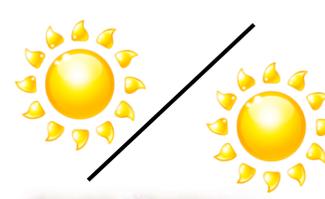
営業利益：増益

- 売上高が堅調に推移

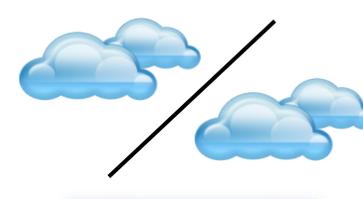
IT・電子材料用途



石けん・洗剤用途



塗料・色材

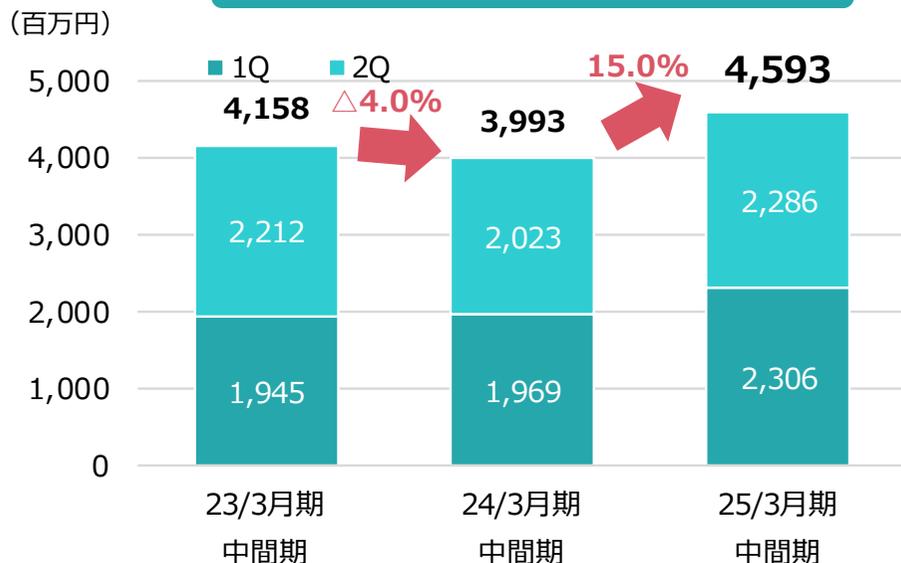




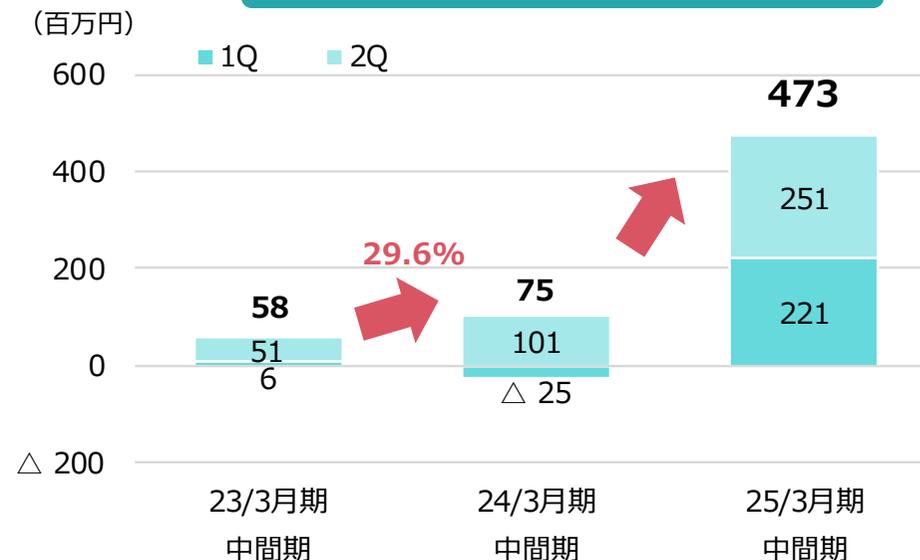
連結 セグメント業績 アメニティ材料

生活環境において快適性を求める材料や周辺応用技術を提供している事業です。

売上高



営業利益



売上高：総じて大幅に伸長

- 化粧品用途: ショ糖脂肪酸エステルは堅調に推移
- 食品用途: ショ糖脂肪酸エステルは海外で大幅に伸長
- I化粧品・環境用途: セルロース系高分子材料は堅調に推移

営業利益：増益

- 売上高の大幅な伸長

化粧品用途



食品用途



エネルギー用途

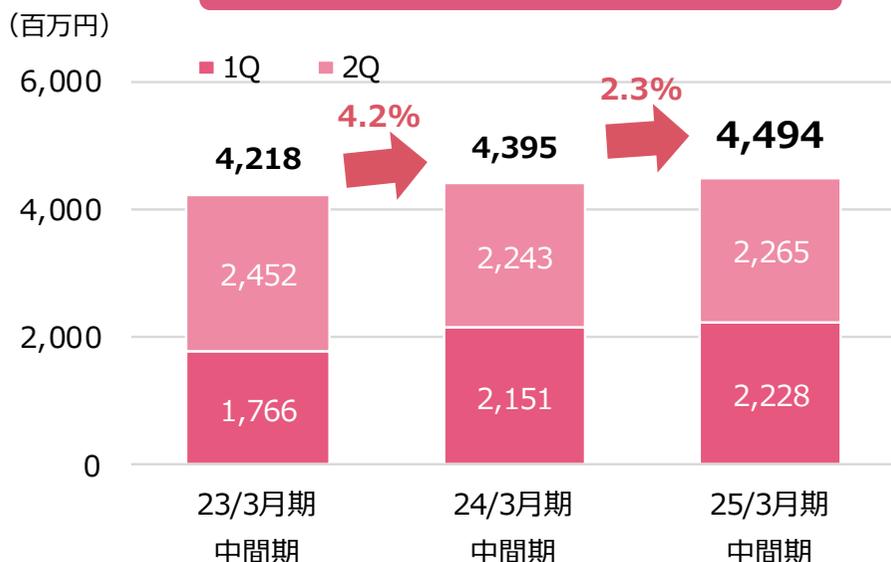




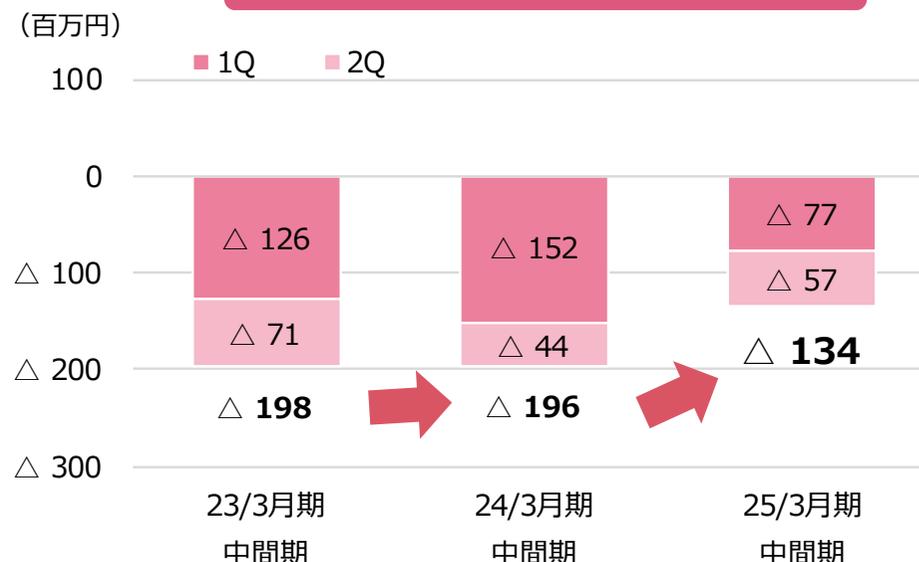
連結 セグメント業績 ウレタン材料

土木・建築材料、塗料、接着剤、電気絶縁材料などウレタン用原料を提供している事業です。

売上高



営業利益



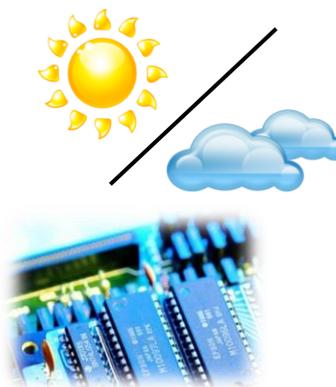
売上高：総じて堅調に推移

- IT・電子材料用途：大幅に伸長
- 土木薬剤用途：大きく落ち込む
- 合成潤滑油：堅調に推移

営業利益：営業損失

- 売上高増加に伴い赤字幅縮小

IT・電子材料用途



土木用薬剤:岩盤固結



合成潤滑油

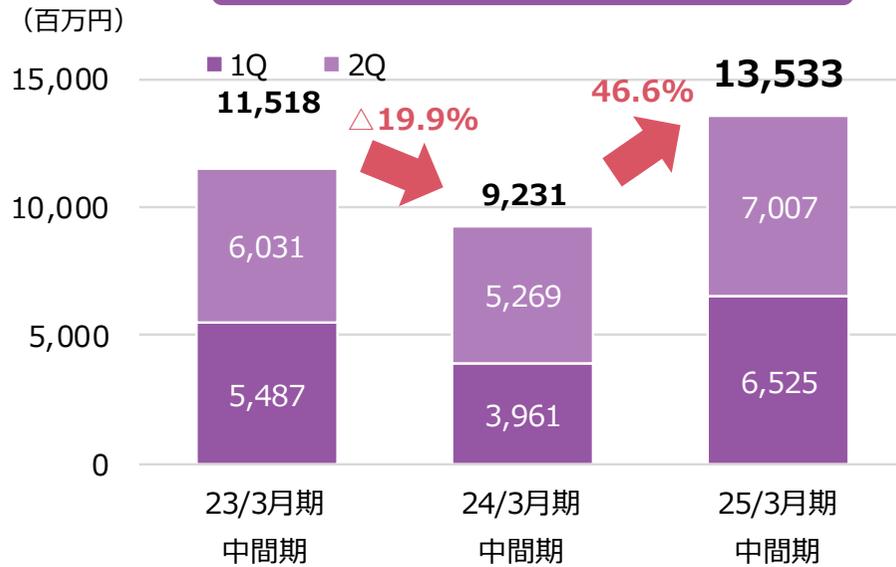




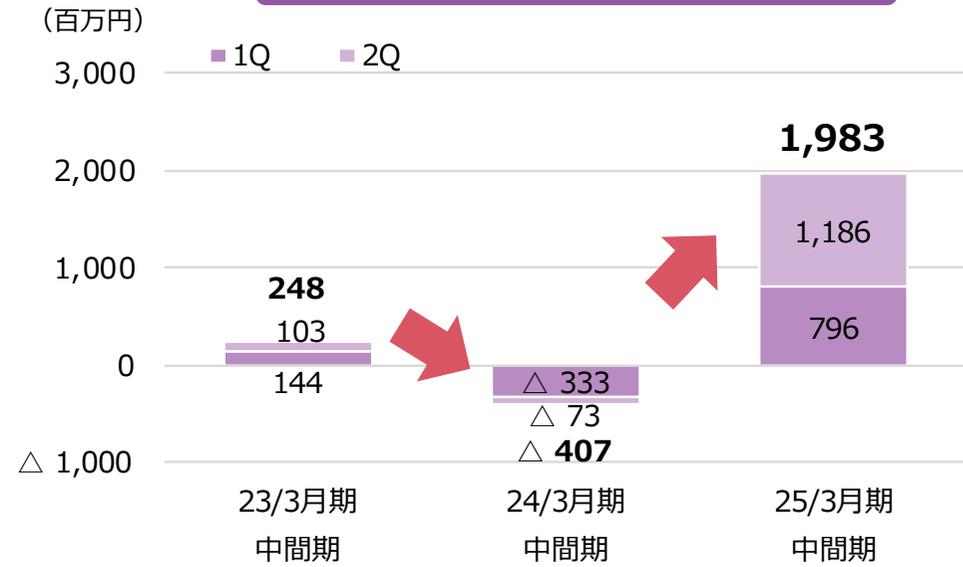
連結 セグメント業績 機能材料

家電製品や生活の必需品用途に、難燃剤、光硬化樹脂や水系ウレタン樹脂などの製品を提供している事業です。

売上高



営業利益



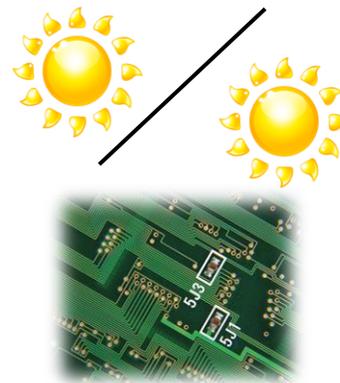
売上高：総じて大幅に伸長

- 電子材料用途：大幅に伸長
- ゴム・プラスチック用途：難燃剤は国内は低調に推移、海外は大幅に伸長

営業利益：増益

- 売上高の大幅な伸長

電子材料用途



プラスチック用難燃剤

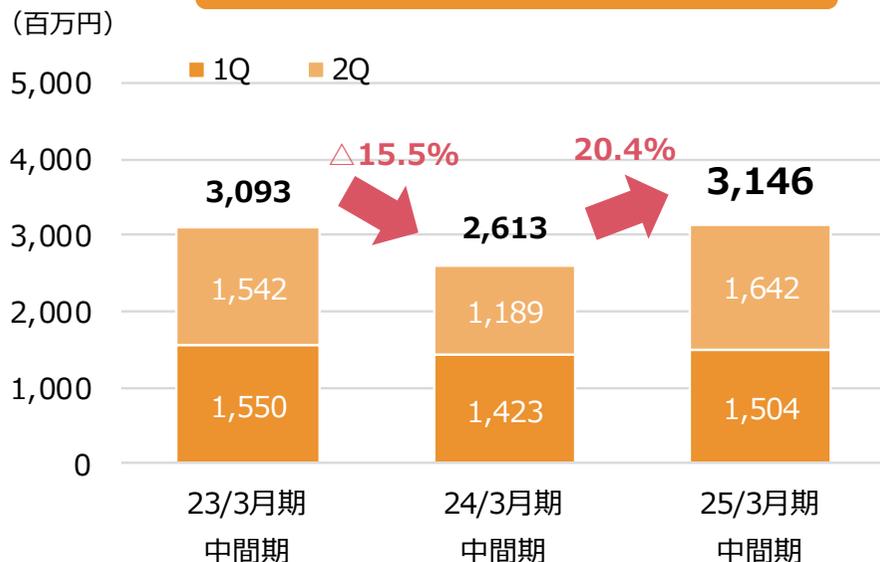




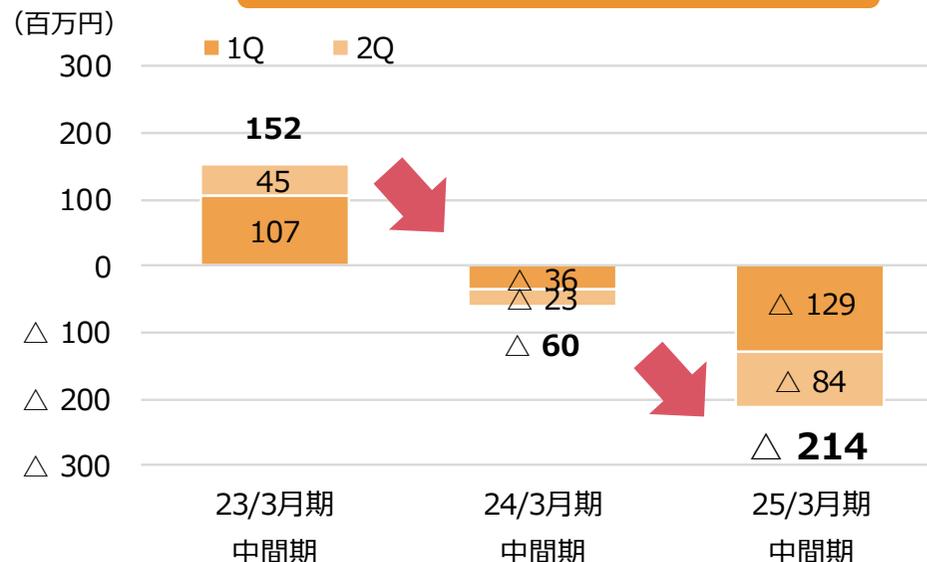
連結 セグメント業績 電子デバイス材料

家電や電子部品用途に、セラミックス材料などを提供している事業です。

売上高



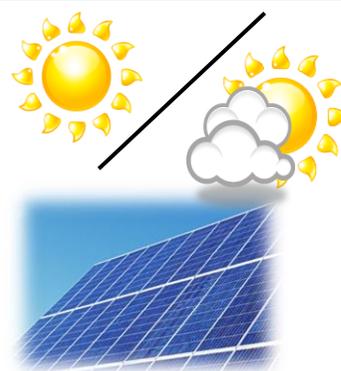
営業利益



売上高：総じて大幅に伸長

- 太陽電池用途：導電性ペーストは大幅に伸長
- ディ스플레이用途：イオン液体は堅調に推移

太陽電池用途



ディスプレイ用途



営業利益：営業損失

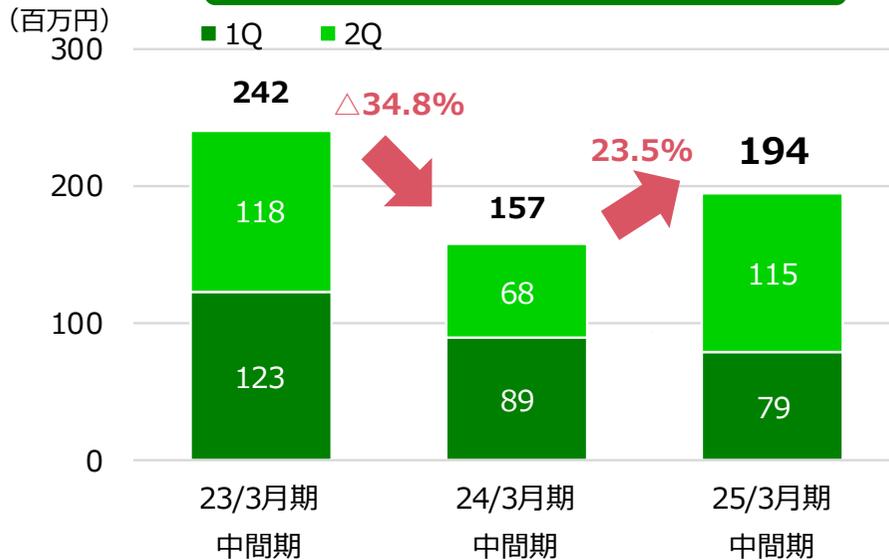
- 研究開発費が先行



連結 セグメント業績 ライフサイエンス

天然由来の健康食品、天然物からの抽出・濃縮・粉末化の技術を提供している事業です。

売上高



営業利益



売上高：前期と比べ増加

- カイコ冬虫夏草：堅調に推移
- 健康食品等の受託事業：堅調に推移

営業利益：営業損失

- 売上伸長、営業経費減少により赤字幅縮小

冬虫夏草・消臭除菌剤



健康食品等の受託事業



(単位：百万円)

	2024年 3月末	2024年 9月末	増減額		2024年 3月末	2024年 9月末	増減額
流動資産	53,614	52,535	△ 1,079	流動負債	25,159	25,083	△ 75
現預金	16,126	14,371	△ 1,755	仕入債務	12,542	12,355	△ 186
売上債権	20,663	20,812	149	有利子負債	8,364	8,247	△ 117
棚卸資産	14,141	14,306	165	その他	4,252	4,481	228
その他	2,683	3,044	360	固定負債	28,081	24,776	△ 3,305
固定資産	40,922	40,421	△ 501	有利子負債	26,773	23,353	△ 3,420
有形固定資産	32,467	32,416	△ 51	その他	1,307	1,422	115
無形固定資産	290	259	△ 30	負債合計	53,240	49,859	△ 3,380
投資・その他の資産	8,164	7,745	△ 419	純資産	41,297	43,096	1,799
資産合計	94,537	92,956	△ 1,581	負債・純資産合計	94,537	92,956	△ 1,581

連結 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



(単位：百万円)

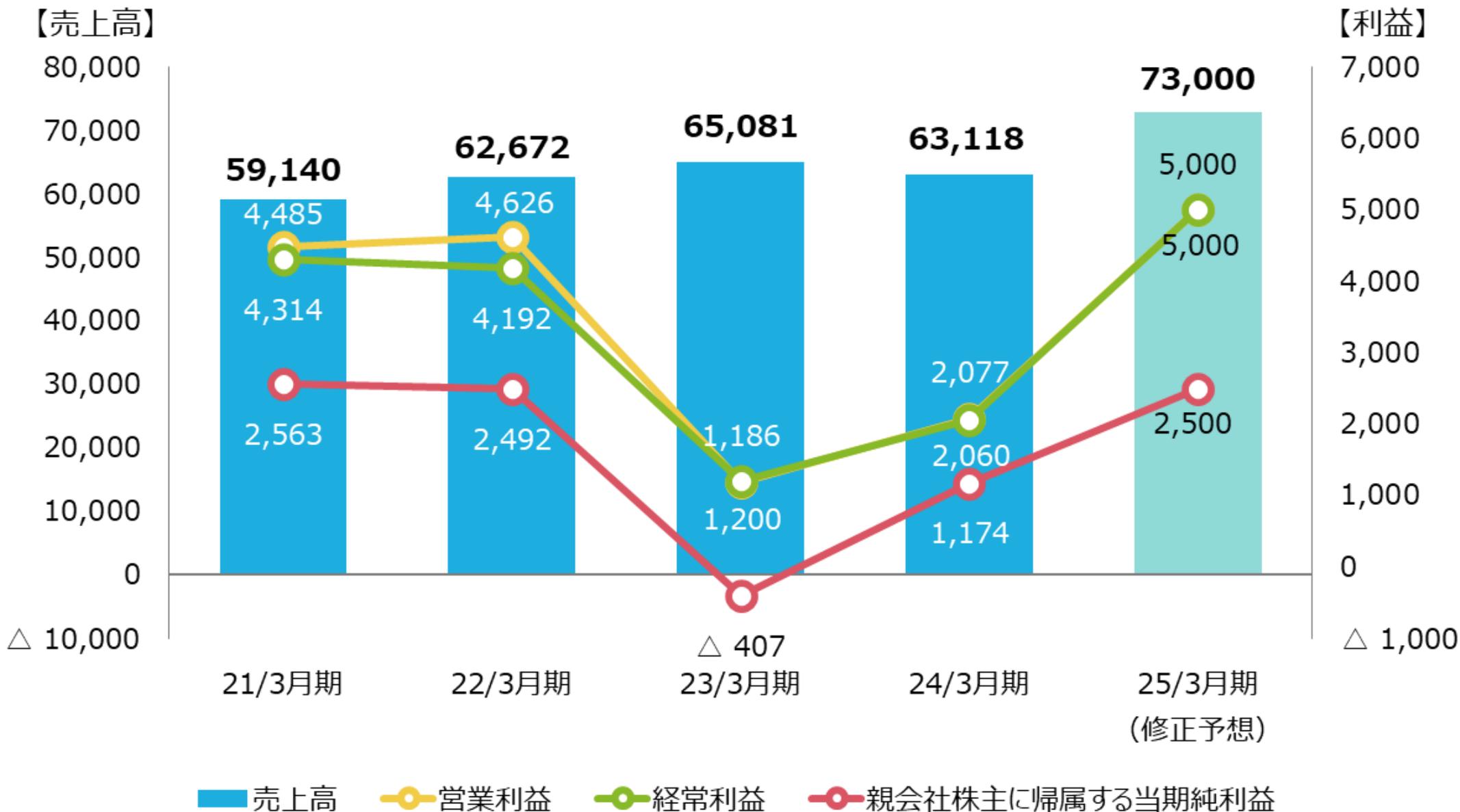
	24/3月期 中間期	25/3月期 中間期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,138	3,501	1,362
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,009	△ 997	11
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,826	△ 4,372	△ 9,199
現金及び現金同等物に係る換算差額	171	94	△ 76
現金及び現金同等物の増減額(△は減少額)	6,127	△ 1,774	△ 7,902
現金及び現金同等物の期末残高	15,179	14,172	△ 1,006

2. 2025年3月期 業績見通し

連結 連結業績推移および予想



(単位：百万円)



連結 当社を取り巻く環境(市況)



分野	状況	2025年 3月期
自動車・二輪	・ 堅調な需要を維持も四輪向けがペースダウンの兆し	
情報通信	・ ハイエンドサーバの需要は引き続き高い	
インフラ (公共工事)	・ 大型予定物件は遅延も着実に進行	
ディスプレイ	・ ハイエンドTVは需要一服感 ・ PC、タブレットは底入れの兆し ・ スマホは底打ちし需要回復を見込むも一部在庫調整の影響が残る	
家電・住宅建材 (難燃剤)	・ 需要は引き続き低調 ・ 臭素、難燃剤価格は需給以外に原料面からも更に下落継続	

具体的な対策

- ①新規案件、需要回復への生産対応
- ②営業・研究活動の加速による既存市場の横展開、次世代品の開発
- ③原材料・エネルギー高への継続的な対応（価格転嫁）

連結 セグメント別売上高予想



セグメント	2024年3月期（実績）				2025年3月期（予想）				前期比増減	
	上半期	下半期	通期	構成比（%）	上半期（実績）	下半期（予想）	通期（予想）	構成比（%）	金額	増減率（%）
界面活性剤	8,809	9,719	18,529	30	9,467	11,022	20,490	28	1,961	11
アメニティ材料	3,993	4,436	8,430	13	4,593	3,906	8,500	12	70	1
ウレタン材料	4,395	4,474	8,870	14	4,494	4,805	9,300	13	430	5
機能材料	9,231	12,208	21,439	34	13,533	14,266	27,800	38	6,361	30
電子デバイス材料	2,613	2,842	5,456	9	3,146	3,353	6,500	9	1,044	19
ライフサイエンス	157	233	392	1	194	215	410	1	18	5
合計	29,200	33,918	63,118	100	35,431	37,568	73,000	100	9,882	16

連結 セグメント別営業利益予想

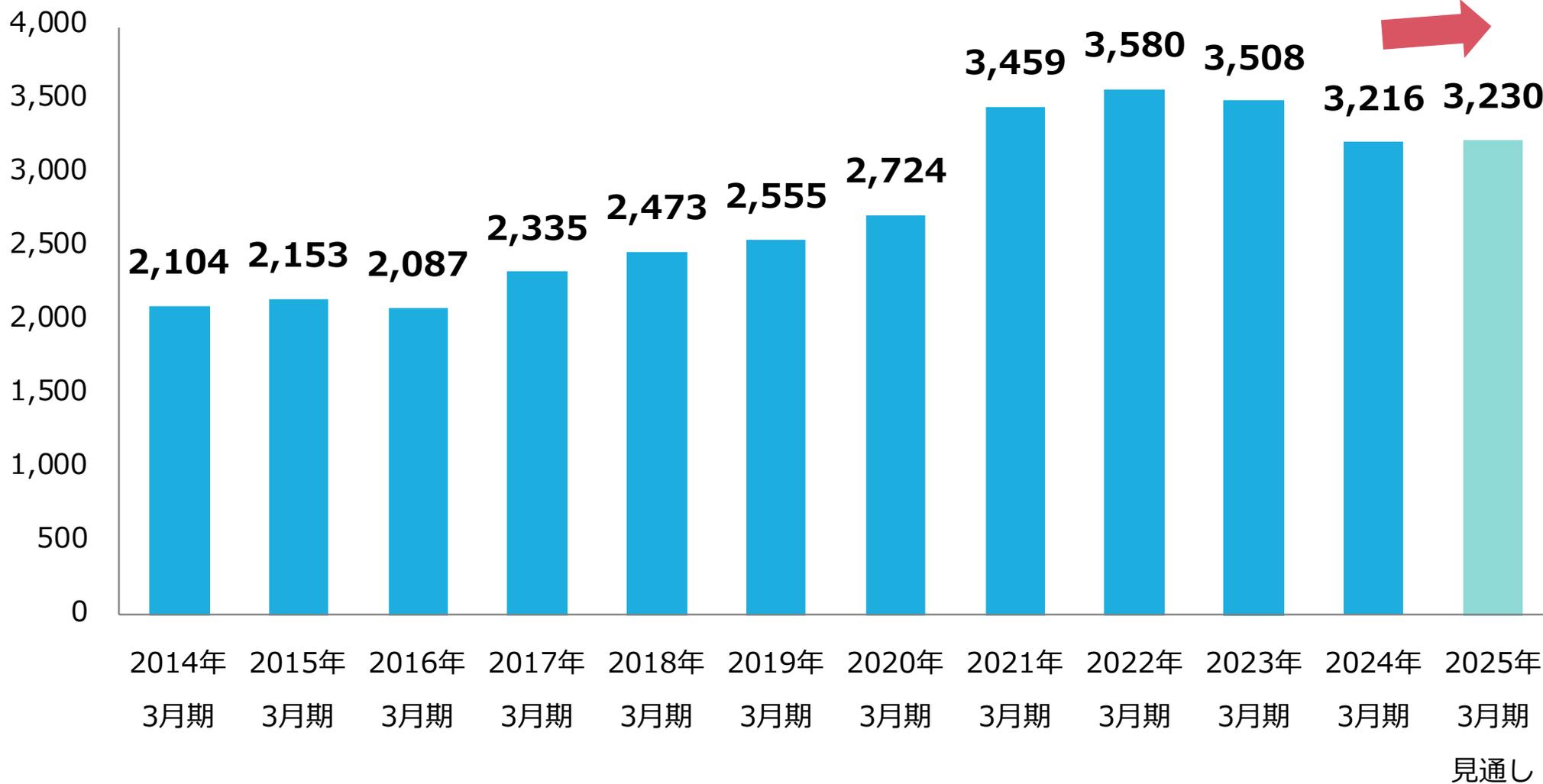


セグメント 単位：百万円	2024年3月期（実績）				2025年3月期（予想）				前期比増減	
	上半期	下半期	通期	構成比（%）	上半期（実績）	下半期（予想）	通期（予想）	構成比（%）	金額	増減率（%）
界面活性剤	621	1,194	1,816	87	712	807	1,520	30	△ 296	△ 16
アメニティ材料	75	382	459	22	473	306	780	16	321	70
ウレタン材料	△ 196	△ 47	△ 243	△ 12	△ 134	△ 95	△ 230	△ 5	13	-
機能材料	△ 407	1,410	1,003	48	1,983	2,006	3,990	80	2,987	298
電子デバイス材料	△ 60	16	△ 43	△ 2	△ 214	△ 155	△ 370	△ 7	△ 327	-
ライフサイエンス	△ 482	△ 430	△ 914	△ 44	△ 346	△ 343	△ 690	△ 14	224	-
合計	△ 449	2,526	2,077	100	2,474	2,525	5,000	100	2,923	141

連結 減価償却費の推移



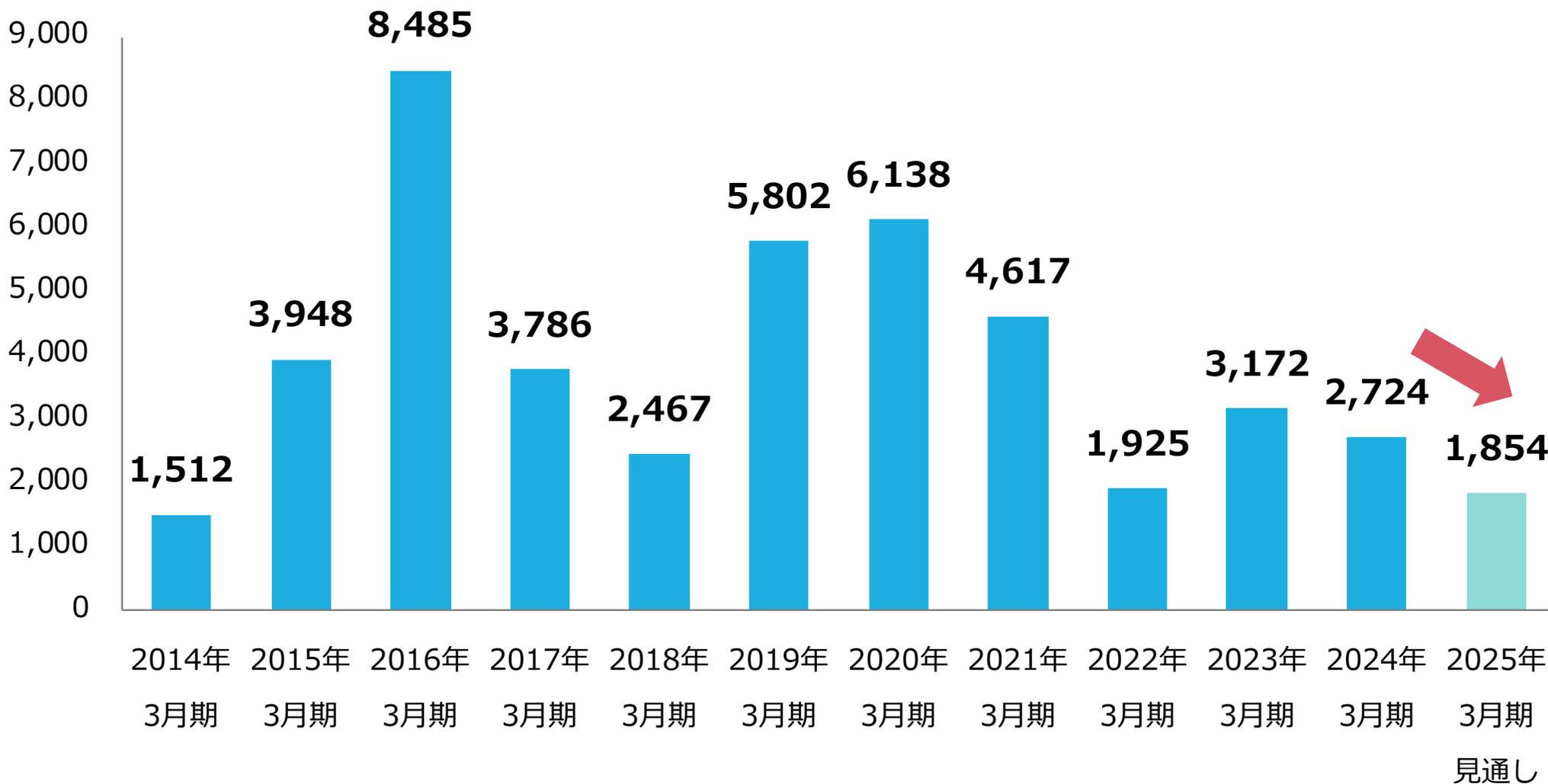
(百万円)



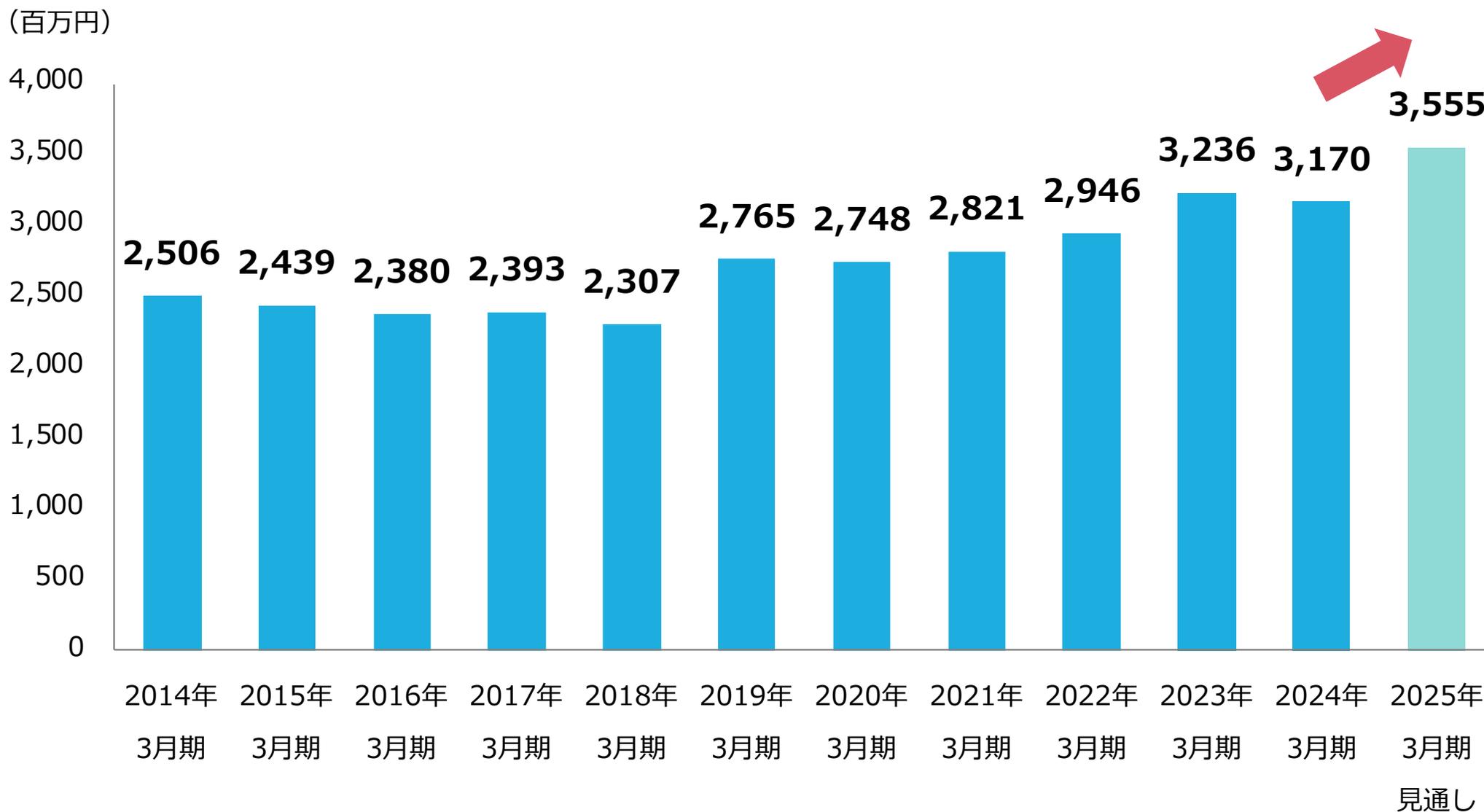
連結 設備投資額の推移



(百万円)



連結 研究開発費の推移



3.2030年に向けた取り組み

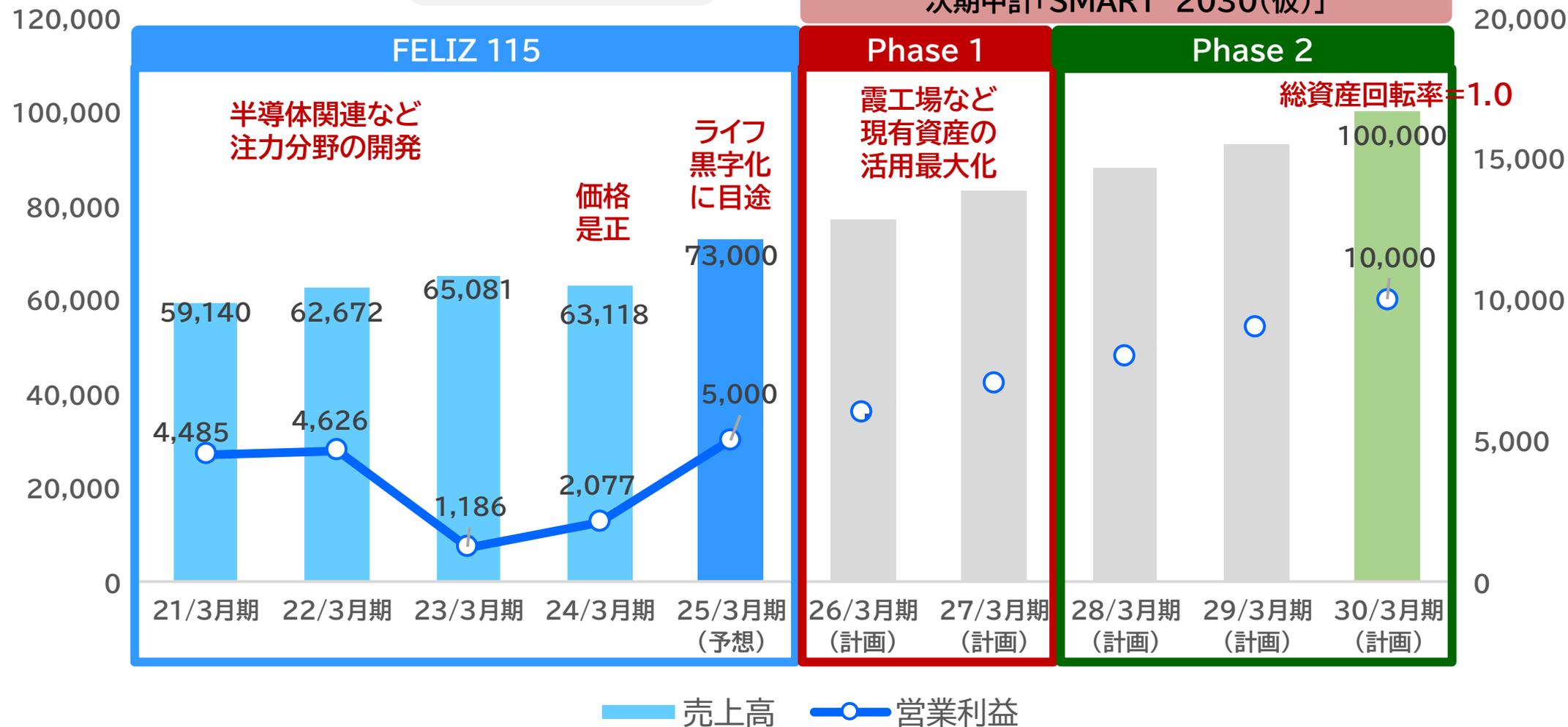
連結 2030年に向けたシナリオ



- ・既存事業の収益改善
- ・周辺事業の拡大
- ・新規事業の黒字化

- ・半導体関連
- ・ディスプレイ・光学材料
- ・難燃剤
- ・糖誘導体
- ・電池用材料

次期中計「SMART 2030(仮)」



事業領域

電子・情報



デジタル社会への貢献

環境・エネルギー



脱炭素社会への貢献

ライフサイエンス



健康社会への貢献

産業資材



循環型社会への貢献

注力分野トピックス

半導体・情報通信関連

- ✓ 半導体工程薬剤に用いられる**高性能洗浄成分有機アルカリ**の拡販
- ✓ **パワー半導体向け封止材料**の開発促進
- ✓ 次世代高速通信に対応した**低誘電材料**

電池用材料・電子制御材料

- ✓ サステナブル社会実現に貢献する**LiB電池用周辺材料**の開発
- ✓ 電子基板の性能・信頼性を支える**封止材 エムフレックス**の拡大

健康食品・脱臭/消臭

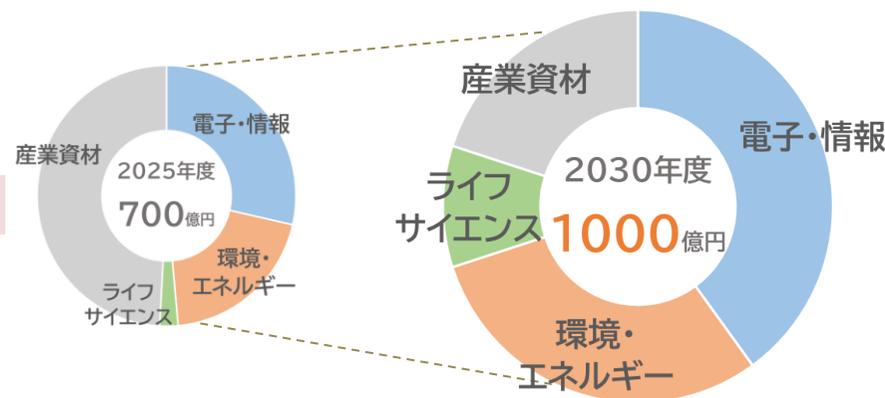
- ✓ 認知機能維持をサポートする機能性表示食品**冬虫夏草**の拡販
- ✓ **NIOCAN**を代表とした「においビジネス」の拡大

非石化対応・カーボンニュートラル

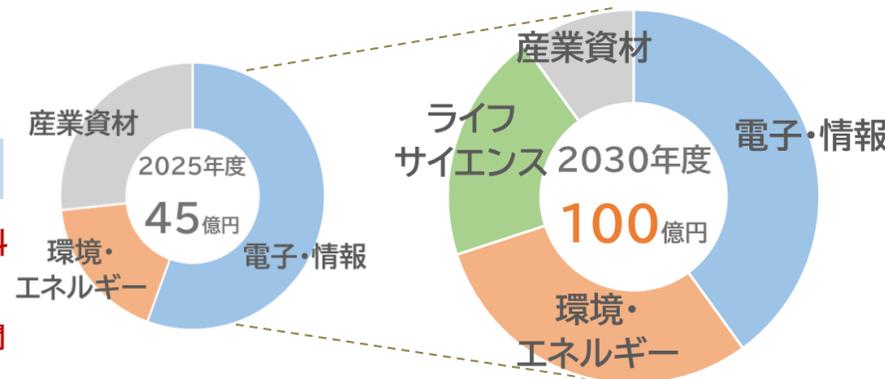
- ✓ 脱炭素社会へ貢献する**環境負荷の少ない天然由来原料**の活用 ex) 糖誘導体製品、生分解性樹脂添加剤
- ✓ コア技術である界面活性剤技術を**注力分野3分野へ展開**

事業規模 <注力3分野を拡大>

売上高



営業利益



※産業資材は、コア技術をもとに注力3分野へ展開を図る

事業領域と規模

電子・情報



ディスプレイ
5G/6G通信部材
パワー半導体封止剤
光エレクトロニクス部材
エッジデバイス

環境・エネルギー



電動車輛EV センサー
バッテリー ソーラーパネル
環境対応樹脂
バイオプラスチック
リサイクル

ライフサイエンス



食品 健康食品 医薬品原料
養蚕ビジネス
においビジネス 代替食品
ニュートリション

産業資材



石鹼・洗剤 クリーニング 塗料
樹脂 農業 農薬 化粧品
食品添加物 トンネル崩落防止剤
難燃剤 分散剤 乳化剤

技術

- ◇低誘電樹脂変性
- ◇酸化重合
- ◇低熱膨張難燃化
- ◇封止◇光硬化
- ◇熱伝導・放熱
- ◇ナノ粒子分散
- ◇屈折率制御
- ◇3Dプリント
- ◇有機アルカリ

- ◇接着◇剥離◇複合
- ◇フィルム化
- ◇粒子表面改質◇封止材
- ◇電子伝導◇イオン伝導
- ◇セルロース、糖・多糖誘導體
- ◇樹脂リサイクル

- ◇天然素材活用
- ◇乳化◇分散◇可溶化
- ◇粉末化◇抽出
- ◇CMO/CDMO
- ◇消臭◇脱臭◇除菌
- ◇バイオセンサー・診断

- ◇界面活性剤/設計・合成・配合
- ◇乳化重合
- ◇糖・セルロース誘導體
- ◇アルキレンオキサイド付加
- ◇水溶性高分子合成
- ◇ウレタン化
- ◇難燃化

強化技術: 省エネルギープロセス 低環境負荷 バイオマス原料活用 フロー合成 計算化学・予測・機械学習

経営戦略【SMART 2030】

社会のさまざまな課題を解決するスマート・ケミカルパートナー

サステナビリティ思想

ユニ・トップ
Unique x Top

Phase1
過去を
超える2年

Phase2
未来へ翔
ける3年

事業戦略
売上高=1,000億円、営業利益=100億円、総資産回転率=1.0

電子・情報 環境・エネ ライフサイエンス 産業資材

営業戦略 **生産戦略** **研究戦略**

販売強化・代理店 資産活用 収益基盤拡大

サプライチェーン サプライチェーン

テーマアップ 開発

GX、DX 脱炭素

人事戦略 人財教育 人財キャリア 組織文化・コミュニケーション

デジタル戦略 デジタル教育 ビジネス投資 システムインフラ データ活用

財務戦略 資金 投資 資産活用

サステナビリティ戦略

企業価値向上

サステナビリティ × 稼ぐ力

経営基盤強化

- ・環境貢献型製品
- ・GHG排出削減
- ・企業価値向上

無形資産戦略

知的財産

- ブランド
- ノウハウ
- 知的財産

人的財産

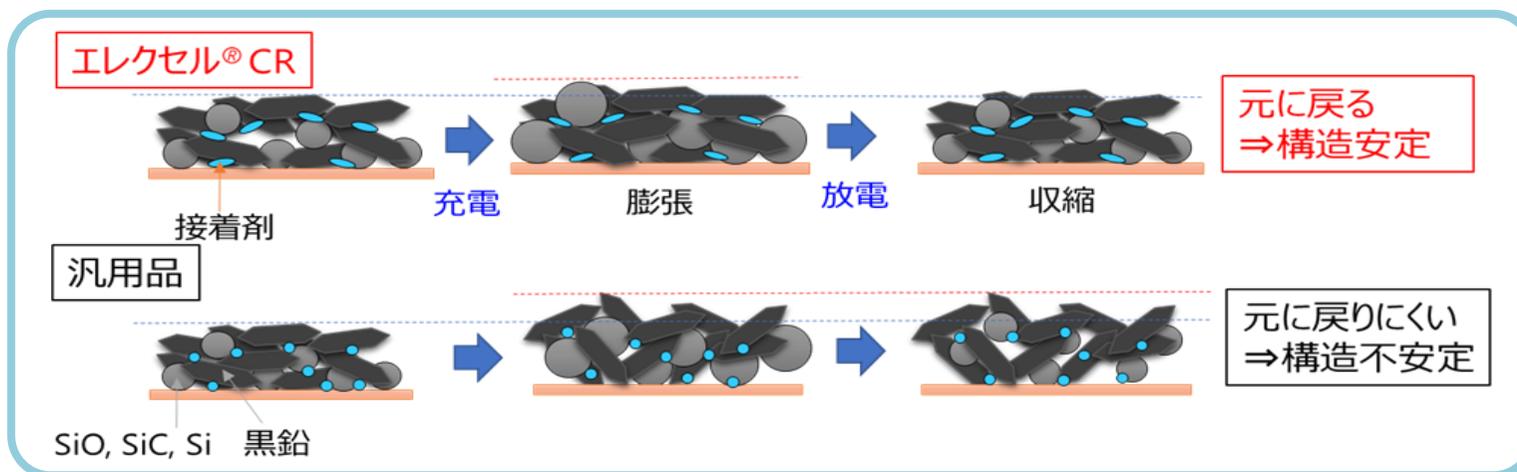
- 企業文化形成
- 人財育成

4.トピックス

Lib負極用水系複合接着剤の生産体制を拡充

高容量リチウムイオン二次電池の負極用水系複合接着剤の生産体制を2024年3月より拡充しました。

伸長が期待される小型機器やEV分野への事業拡大をめざし、サステナブル社会の実現と環境負荷低減に貢献します。



充放電における開発品「エレクセルCR」と汎用品の電極の構造変化のイメージ図

「エレクセルCRシリーズ」は、シリコン系材料を少量から100%まで配合しても、安定した寿命特性を示します。樹脂の弾性率や強度のコントロールを行い、汎用品では難しい負極材の膨張収縮に適応する性質をもち、高い構造復元性を発揮します。

https://www.dks-web.co.jp/updata/n_pdf/2024030401.pdf

ポリマー電解質材料「エルクセル® ACG シリーズ」 リチウムイオン電池の安全性と長寿命化を実現

当社製品を電解液に添加して加熱処理することにより、漏液を防止し、電池の安全性を向上させます。

また、条件次第では寿命を従来の3倍以上に延ばすことが可能です。

2030年までに年間30億円の売上をめざします。



図 1. 加熱処理前後の外観変化
(電解液にポリマー電解質を 2wt% 添加)

https://www.dks-web.co.jp/updata/n_pdf/2024080701.pdf

第4回サステナブル マテリアル展(幕張メッセ10/29~31)に出展

第4回サステナブル マテリアル展では、当社の4カテゴリー、18アイテムを展示しました。

3日間で800名を超える方が、当社ブースに来場され、活発な意見交換を行いました。

<エネルギー>

- ポリマー電解質<電池性能の安全性向上> ●表面改質剤<電極活物質の表面状態改質>
- 溶剤系ポリイミド<LiB 向け高容量化材料> ●水系バインダー<LiB 用長寿命化・軽量化材料>
- 常温硬化型ウレタン樹脂材料<高 Tg 高強度> ●無溶剤多官能モノマー<低粘度&高硬度>

<天然原料>

- 糖誘導体化合物<バイオベースの樹脂改質剤> ●TRIBIO®<ポリ乳酸の耐熱、耐衝撃性改善>
- セルロースナノファイバー<セラミックスの強度向上> ●セルロース<熱可塑性・難燃性>
- セロオリゴ糖<酵素でつくられたナノセルロース> ●水系ウレタン樹脂<バイオマス由来原料>

<ライフ&ヘルスケア>

- DKS においてテクノロジー<消臭・脱臭・芳香> ●水系ポリウレタン<生体適合性>

<高機能材料>

- イオン液体<PFAS 規制に対応> ●カーボンナノチューブ分散液<電池材料に添加>
- セルロースナノファイバー磁性粒子<タンパク質捕集> ●反応性界面活性剤<環境負荷低減>



サステナブル マテリアル展
～幕張メッセ～

https://www.dks-web.co.jp/updata/n_pdf/2024100301.pdf

MIG株式会社とパートナー契約を締結

～認知機能低下リスクの早期発見と効果的な予防策の普及に向けて～

MIGの「Brain100 studio」プログラムの取り扱い・提供に関するパートナー契約を締結しました。

この契約は、認知機能低下リスクに対する予防策として、MIGの脳健康VR測定の普及と、当社の「ナトリード®」の認知・普及を図り、健康で笑顔あふれる社会の実現をめざしています。



MIG が提供する脳健康 VR 測定法「Brain100 studio」

https://www.dks-web.co.jp/updata/n_pdf/2024091201.pdf

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画、予測したものであります。

実際の業績などは、今後のさまざまな条件、要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

第一工業製薬株式会社

広報IR部 IRグループ

TEL: 03-3275-0654 E-mail: d-ir@dks-web.co.jp